

仙谷大臣ぶらさがり記者会見要旨（未定稿）

（平成22年2月22日（月）19：20～19：35 於）内閣府本府5階仙谷大臣室）

質疑応答

（問）今日の懇談会ですけれども、どのような議題があつて、どのような議論があつたのでしょうか。

（答）自由討論という感じでした。要するに儲けを目的としないいろんな活動をなさっている団体の代表者とですね。この会議は政府も参加者の一員、one of themということですから、政府が主宰してお膳立てしてということではないんだけど、政権交代があつたものだから止まっていたという事で、じゃあこれも参加して改めてやってみようということですね。

世の中がこういう風に成熟した後で、坂の上の雲を目指して登っていく段階とはやや雰囲気が変わってますから、改めて競争も重要だけれども、競争だけじゃなく協働とか一緒に働く、一緒に活動して新たな関係性をつくっていく必要があると。

つまり、昔に帰ることはできないわけだから、カネが媒介になって、商品・サービス交換だけのマーケットで自分の必要なものを調達するということから一步進んで、新たな人と人との関係をつくり出していく。そのためにはどうしたら良いかという、これは永遠の課題かもしれないけれども、それを実践している人達のお話を聞いたということ。日本の場合にはどうしてもそのことを邪魔する何かがある、すなわちそれを活性させる何かよりも邪魔する何かがある、ということだから、邪魔するものは取り除かなくては行けない。やっぱりこの行政の中にどうも阻害するもの、邪魔するものがあるのではないかという問題提起があるわけですね。これを謙虚に受け止めて、今の行政を担う我々がですね、全く同じ目線で議論を闘わせながら、主体的、自主的にそういうものがあれば取り除きましょうと、こういうつもりでお話をしましたけれども。

（問）具体的に印象に残ったテーマとか、具体的な事業があれば。

（答）一つは、銀行なり生命保険会社なりがですね、協会などをつくって社会的な活動をしたいということだなさっているところですが、それが儲けではないけれども事業経営としてであるということが重要だということ。それから、日本の場合には邪魔するものの中に、市民の中での寄附文化が薄いんですよね。それを促進させるのは税制なのか何なのか。あるいは税制以前の問題としてそういう寄附金控除を受けられる団体であることをお上が認定するという仕組みになっていてですね、昔は天下りの役人がいるところは、特定公益増進法人として寄付金控除の認定を受けやすいけれども、普通の公益法人は全然受けられなかった。今度の制度では公益認定を受ければできるというふうに公益法人の法律が変わったわけですね。ところがここの手続が延々たる、大変煩瑣な手続になっているという話は、別に今日の話ではなくて、ずっとこの1年数ヵ月、つまり一昨年12月1日から始ま

ってから言われていると。そういうことで、今日堀田力さんあたりからですね、儲けをやっているわけじゃなくてまともにやっているんだということを仲間の団体が保証する、つまり連帯責任をとる制度であれば簡単に認めてはどうかという提案もございましたね。

それからもう一つは、我々が今大変気にかけていて、これはどういうふうにすればいいんだろうと悩んでいることでもあります。貧困問題が提起されました。貧困問題も生活保護型のように、税金を手当ということで渡してそれで解決だということだけではなくて、やっぱり人と人との関係性の問題である。と同時に、どうやって手に職をつけてもらうのか、手に職をつけることについて税金で行うのではなくて、社会的企業あるいはそのボランティア団体、NPOの中で何かそういうものがないかと、そういうことがやっぱり課題だなという感じがしましたね。

だから、たくましく自立的、主体的に活動をしていただける団体がですね、「官」と「私」の間に、「共助」なのか「新しい公共」なのか、何れにしてもそこにそういうものが雨後の筍のようにどんどん出てきてくれるというのは良いことなんでしょうね。

ただ、今日の新聞かに出ていたけれども、野党職員が斡旋したNPOがどうのこうのみたいな薄汚い政治的な歪曲みたいな話が、事実かは分からないけれど、新聞報道でありました。そういうことを気にしなくてはいけなくなると、事前規制でまたハードル高くなってできなくなるということなんでしょうね。

（問）今日の円卓会議のメンバーとの意見交換を通じて、新しい公共の具体策を練っていくことになるのか。

（答）それも、この間から始めた「新しい公共」円卓会議と車の両輪でしょうね。今日の会議は、どちらかというんですね、良い悪い全く関係無しに、いろんな日本のある種中間機関といわれる伝統的名門団体の代表者の方々が多いわけですね。

一方、私どもの方で総理の私的懇談会ということで開いている会議は、どっちかというと、その世界のベンチャー系というか若々しい人々というのでしょうか、何とか協会とかにまだ収斂されていない方が多いんじゃないでしょうかね。

労働組合にしても公益法人協会にしても、これはこれでこれまで役に立ってきたし、これからも役に立って頂かないといかんということですが、この種の世界は絶えず新しいものがどんどん出てくる状況になって、競争というよりも切磋琢磨という中で「新しい公共」的世界が広がっていくということが一番望ましいんじゃないかと思いますね。

（以上）